

# 「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

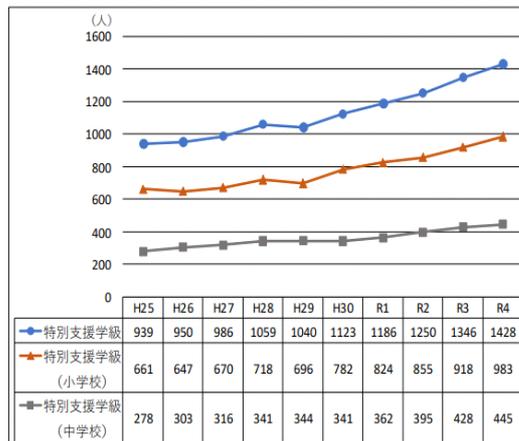


特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

## 「数字で見る秋田県の特別支援教育の動向」

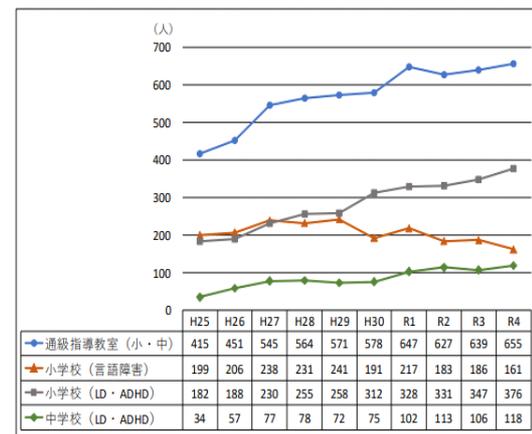
### 2 特別支援学級に在籍する児童生徒数の推移

(1) 特別支援学級全体の児童生徒数と校種別児童生徒数



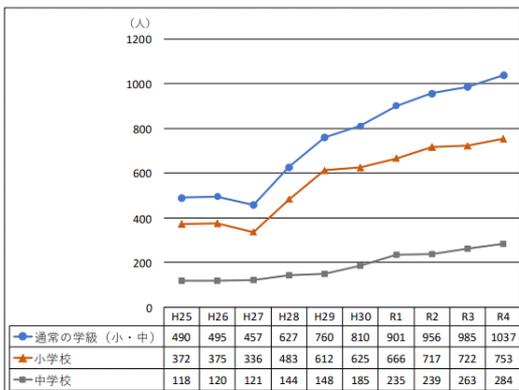
### 3 通級指導教室を利用する児童生徒数と通級指導教室数(小・中学校)

(1) 通級指導教室全体の児童生徒数と校種別・障害別児童生徒数



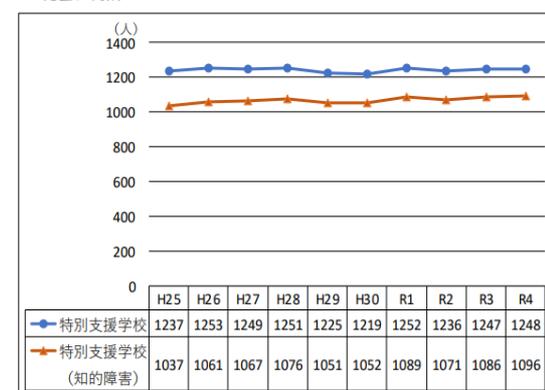
### 4 通常の学級における障害の診断のある児童生徒数(小・中学校)

通常の学級全体の障害の診断のある児童生徒数と校種別の障害の診断のある児童生徒数



### 4 特別支援学校に在籍する幼児児童生徒数の推移

(1) 特別支援学校全体の幼児児童生徒数と特別支援学校(知的障害)の児童生徒数



この10年間で、特別支援学校の児童生徒数は横ばいですが、特別支援学級在籍数(+489人)、通級指導教室利用者数(+240人)、診断名のある児童生徒数(+527人)が増えています。要因としては、発達障害への気付きと切れ目ない支援体制の整備、障害への理解推進、社会の変化(少子化、ネット社会の加速化、地域社会の希薄さ)、家庭環境や養育環境の変化(核家族化、愛着問題)、規範意識や人間関係を形成する力の低下等が考えられます。

一部の先生が特別支援教育を担当する時代は終わりました。特別支援教育は一部の支援対象児だけのものではなく、子ども一人一人の個性を大切に、影の部分为解决し、光の部分により輝かせる幅の広い教育です。学校(園)の標準装備として捉え、他の教育活動と関連付けながら、学校教育の真ん中に位置付けて、全職員で取り組むことが求められています。



**とれたて直送便**



「立ち止まることは、次の一歩を踏み出すこと」

怒るは真剣だった証拠 喧嘩するは一緒だった証拠 つまづくは進んでいる証拠  
裏切られたは信じていた証拠 疲れたは頑張った証拠 失敗したは挑戦した証拠・・・  
辛いときや苦しいときは、少し立ち止まって、もう一度歩きだせばいい・・・

「正」とは、一度、止まってスタートラインに立つことです。「歩」とは、少し立ち止まってから、少しずつ歩き出すことです。疲れたときは、一度立ち止まりましょう!